

# 発布後目にした4つの見解

1. 石上智康著『生きて死ぬ力』
2. 勸学寮『ご消息 解説』
3. 総長退任挨拶
4. ご門主『新しい「領解文」を通して伝えたいこと』

発表者 山上正尊

# 1. 石上智康著『生きて死ぬ力』(増補版2020年中央公論社)

悟りにいたる うえで 大切なことは  
無常を観じる ということ(65頁)

ことものすべて  
縁起 空である と悟り  
安楽に 成る(90頁)

} 因  
果

果  
因



本願寺ブックセンターで  
は新旧ともに販売

## 『生きて死ぬ力』

ことものすべて  
縁起 空である と悟り  
安楽に 成る<sup>(90頁)</sup>

## 新しい「領解文」

私の煩惱と仏のさとりは  
本来一つゆえ  
「そのまま救う」

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つである  
と悟るから  
「私＝仏」「そのままの救い」が成立する

## 2. 勸学寮『ご消息 解説』(『本願寺新報』2023.2.1)

### 私の煩惱と仏のさとりは 本来一つ

「凡夫の立場からすれば異様」

「智慧の眼で眺めた時には「煩惱と菩提は一つ」と見ることができます」

✕ 悟りにいたる うえで 大切なことは  
無常を観じる ということ(65頁)

- 当流は 私が「絶対的な真実無相」(智慧)をさとの仏道ではありません
- 当流は 仏が「智慧からこの私をよんでくださる慈悲」の仏道です

→ 当流は 私が「絶対的な真実無相」(智慧)をさとする仏道ではありません

●善導大師『定善義』像観 諸師の「唯識法身之観」「自性清浄仏性観」を否定

是心作仏

懺悔し滅罪して、観仏の修行をおこなえば、心の濁りが浄化され

心は本来の清浄な法身にかえる

是心是仏

衆生の煩惱の心も、その本性は清浄な法身真如そのものである

●令和5年度安居会読「指方立相」判決(抜粋)

善導大師は仏語に随順し、具体的な莊嚴相によって彩られた他方世界としての阿弥陀仏の浄土を、凡夫は願生し、称名念仏によって往生して、さとりをひらく教えこそが浄土教であることを、明らかにされたのである。

宗祖が「化身土文類」(『聖典全書』二・一九六)に第八像観を引用された意を窺うと、八万四千の釈迦一代仏教より『観経』の経説を捉え、立相住心さえも難しい末代罪濁の凡夫には、聖道門は不可能な教えである

# 捨てる 仏語に随順

- 「散善義」深心釋第五(『註釈版』七祖篇457頁)(信文類『註釈版』218頁)

また深信とは、仰ぎ願はくは、一切の行者等、一心にただ仏語を信じて身命を顧みず、決定して依行し、**仏の捨てしめたまふをばすなはち捨て**、仏の行ぜしめたまふをばすなはち行じ、仏の去らしめたまふ処をばすなはち去る。これを仏教に随順し、仏意に随順すと名づけ、これを仏願に随順すと名づく。これを真の仏弟子と名づく。

- 『選択集』(『註釈版』七祖篇1285頁)(行文類『註釈版』186頁)

速欲離生死、二種勝法中、且**闍**聖道門選入淨土門。欲入淨土門、正雜二行中、且**抛**諸雜行選應歸正行。欲修於正行、正助二業中、猶**傍**於助業選應專正定。正定之業者即是稱佛名。稱名必得生。依佛本願故。

- 『領解文』

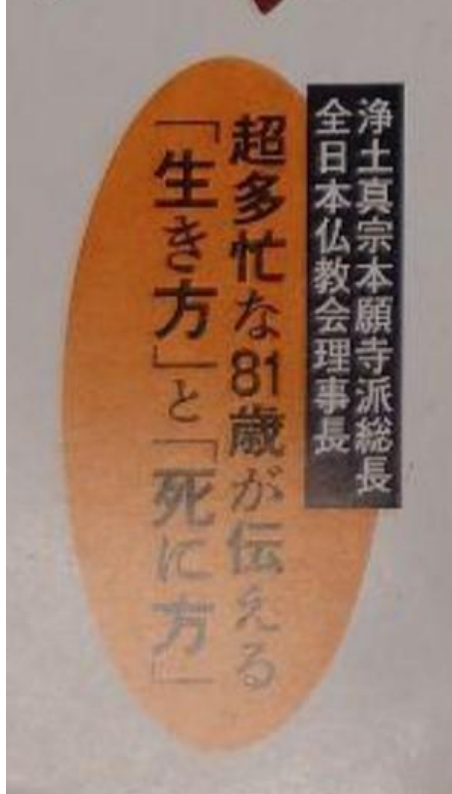
もろもろの雜行雜修自力の心を**ふりすてて**

私人として



築地本願寺オフィシャルショップ

「浄土真宗本願寺派総長  
現役の84歳が」



旧版には帯が2種類

「浄土真宗本願寺派総長」



### 3. 石上智康総長 退任挨拶 『宗報』2023(令和5)年6月号17頁

阿弥陀仏のお慈悲が、なぜ摂取不捨であり得るのか。

煩惱具足のこの私が、信心ひとつで、どうして「そのまま」救われるのか。

「そのまま」助ける ご法義の肝要

→私の煩惱と仏のさとりは  
本来ひとつゆえ

昭和42年9月1日(第1種郵便物認可) 令和5年6月15日(印刷) 令和5年6月15日(発行) (毎月15日発行) 第667号

# 宗報

SHU-HO

6  
2023 (令和5)

JODO SHINSHU HONGWANJI-HA

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要円成  
宗門ニュース 速報 池田行信氏 総長に就任  
新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)に関する総局見解  
付・総長(石上前総長)から淺田幼学寮頭宛公文書(お願い)  
第322回 回臨時宗会報告(総長退任挨拶)



2023(令和5)年度公聴会開催について

宗報ホームページ <https://www.hongwanji.or.jp> 本報ホームページ <https://www.hongwanji.kyoto>



## ご法義の肝要 信＝聞其名号 仏願の生起本末を聞く

### 仏願の生起

弥陀が本願を起こされた理由

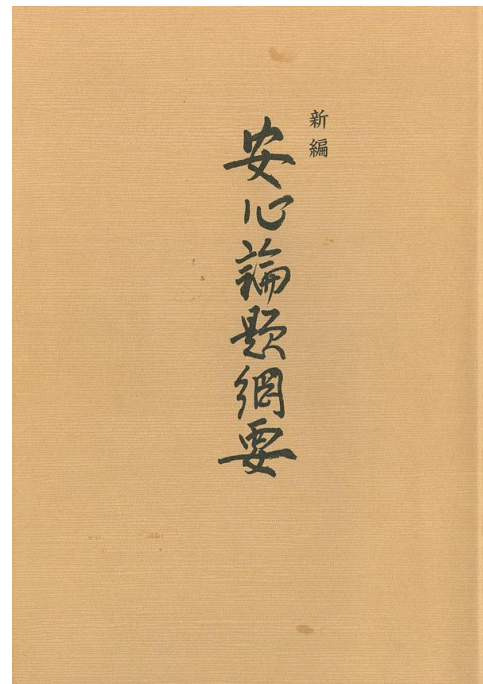
→自らの力では決して迷界より出る  
ことのできない私を救うため

本

法蔵因位のときの発願修行

末

願行が満足して、阿弥陀仏として  
十方衆生を済度されつつあること



『安心論題綱要』『聞信義相』4頁

## ご法義の肝要 信＝聞其名号 仏願の生起本末を聞く

### 仏願の生起

弥陀が本願を起こされた理由

→自らの力では決して迷界より出ることのできない私を救うため

本

法蔵因位のときの発願修行

末

願行が満足して、阿弥陀仏として十方衆生を済度されつつあること

なぜ「そのまま」救いたいと願ったのか

→私は罪悪生死の凡夫、曠劫よりこのかた常に没し常に流転して出離の縁がないから

どのように「そのままの救い」をできるようになったのか  
どのように「そのままの救い」がとどいているのか

## ご法義の肝要 信＝聞其名号 仏願の生起本末を聞く

### 仏願の生起

弥陀が本願を起こされた理由

→自らの力では決して迷界より出ることのできない私を救うため

本

法蔵因位のときの発願修行

末

願行が満足して、阿弥陀仏として十方衆生を済度されつつあること

(方便法身)

石上智康総長 退任挨拶

阿弥陀仏のお慈悲が、**なぜ**攝取不捨であり得るのか。

煩惱具足のこの私が、信心ひとつで、**どうして**「そのまま」救われるのか。

さとの世界の風光  
(法性法身)

## 法統継承に際しての消息 2014(平成26)年6月6日

本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて変わっていかねばならないでしょう。現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要があります。

## 4. 新しい「領解文」を通して伝えたいこと『中外日報』2023.3.17

ご法義自体は不変ですが、その伝え方は時代や社会の状況に応じた工夫が求められます。

私は最後の第3段落を重視しています。それは、既に「念佛者の生き方」や「私たちのちかい」でお示した思いと同様です。

「法度」を変えるおつもりようだ

開宗800年を祝う

慶讃法要を迎えて  
大谷 光淳門主

本日(令和5)年は浄土真宗開宗800年の節目に当たり、弊宗は親鸞聖人が『浄土真宗の教義』(『教行信証』)を著され、浄土真宗の宗義を確立された「開宗800年」を記念し、今年を祝う。これを機縁に御本願寺では、3月29日～6月21日まで5ヵ月期間にわたり慶讃法要をおこなう。10年一度の慶讃法要に、大谷光淳門主が、慶讃法要を迎えての心算やこれからの宗門のあり方、1月18日の御正命聖誕2000年忌に際して発表された「新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)」について述べる。

大谷 光淳門主

就任から現在までの取り組み

法要の意義と意義

宗門として

伝道に工夫、多様性と共感伝える

## 4. 新しい「領解文」を通して伝えたいこと『中外日報』2023.3.17

**ご法義自体は不変**  
ですが、その伝え方  
は時代や社会の状  
況に応じた工夫が求  
められます。

安心を変えるおつ  
もりはなさそうだ  
**往生成仏の因**  
(業因門)

私は最後の第3段落を  
重視しています。それ  
は、既に「念仏者の生  
き方」や「私たちのち  
かい」でお示した思  
いと同様です。

「法度」を変えるお  
つもりのようだ  
(起行門)



# 少年連盟「せいてん」

## ち か い

◇ちかいへ9ページ◇  
一九五五（昭和三十）年に婦人青少年部において六波羅蜜をもとに考案されたものです。これは、如来の眞実清浄ないのちのあり方を拝して、わが身を知らされるものです。

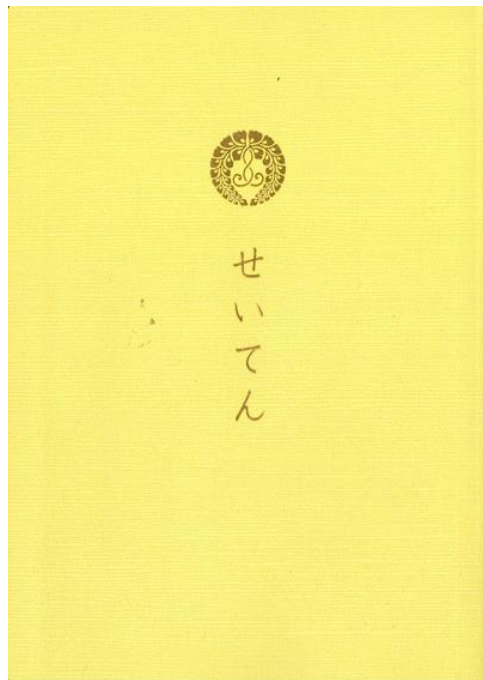
一、うんこ 仏の子は すなおにみ教えをききます

一、うんこ 仏の子は かならず約束をまもります

一、うんこ 仏の子は いつも本当のことをいいます

一、うんこ 仏の子は にこにこ仕事をいたします

一、うんこ 仏の子は やさしい心を忘れません



現在は「浄土真宗の救いのよろこび」が  
削除されている



## 4. 新しい「領解文」を通して伝えたいこと『中外日報』2023.3.17

**ご法義自体は不変**  
ですが、その伝え方  
は時代や社会の状  
況に応じた工夫が求  
められます。

私は最後の第3段落を  
重視しています。それ  
は、既に「念仏者の生  
き方」や「私たちのち  
かい」でお示した思  
いと同様です。

疑問 安心を変えるつもりがないなら、「領解文」として出す必要は無く、「生き方」「ちかい」でいいじゃないか





# 発布後目にした4つの見解

1. 石上智康著「生きて死ぬ力」 仏因は理仏を観ずること
2. 勸学寮「ご消息 解説」 1. は当流の安心ではない
3. 総長退任挨拶 安心が変わり、「ゆえ」がまとはずれ
4. ご門主「新しい「領解文」を通して伝えたいこと」  
安心を示すことではなく法度を伝えたい  
→「領解文」にしたかったのはだれか